

経営比較分析表（令和2年度決算）

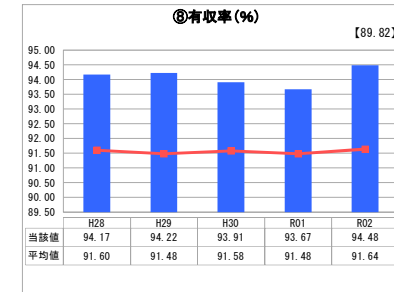
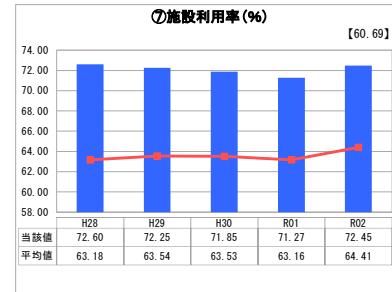
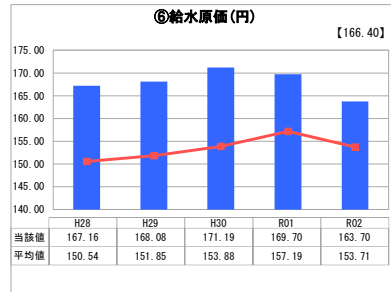
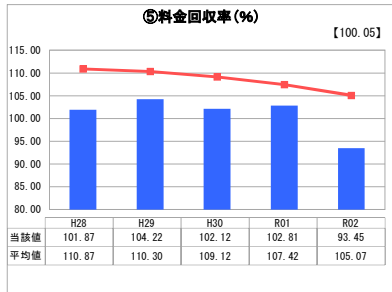
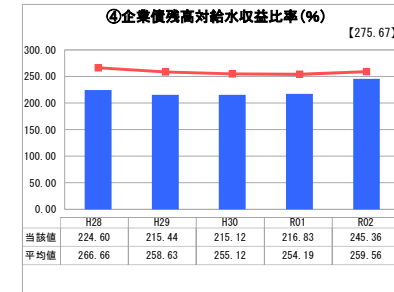
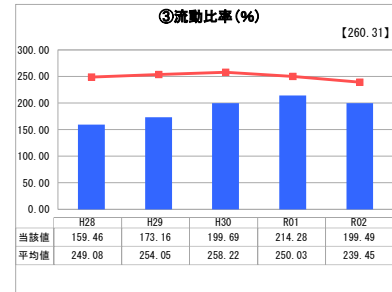
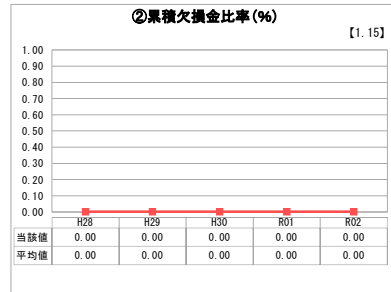
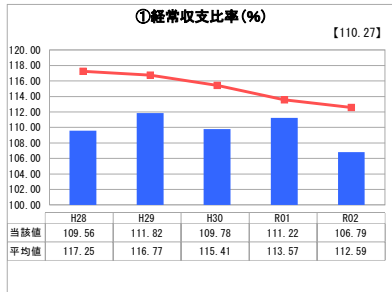
兵庫県 西宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ² 当たり家庭料金(円)	
-	64.56	99.98	2,777	

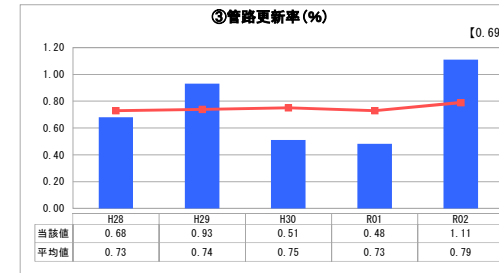
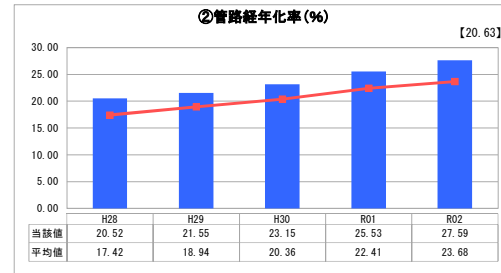
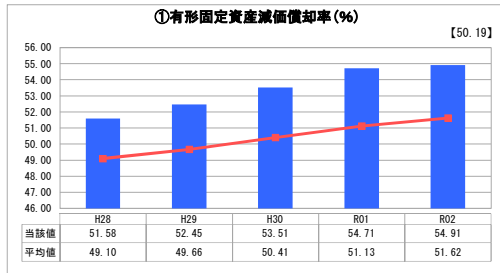
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
484,204	99.96	4,843.98
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
483,528	73.49	6,579.51

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は、平成16年度より浄水場の統廃合をはじめ施設能力の適正化を図ってきたため、施設利用率は高い。また、管路の維持に努めた結果、有収率も高い状況にあることから、施設の効率性は良好といえる。

平成28年度に料金改定を実施したことなどにより、料金回収率・経常収支比率・流動比率は改善したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、4か月間の水道料金の基本料金を免除したことにより、一時的に悪化している。給水原価も平均値に比べ高いことから、引き続き経営改善・経営基盤強化に努める必要があると考えられている。

また、阪神・淡路大震災時に発行した多額の企業債の償還に取り組んできたことなどにより、企業債残高対給水収益比率は他市に比べて低くなっている。増加していた給水人口が平成29年度には減少に転じたことから、給水収益も減少していくことが見込まれ、企業債残高の削減を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を用いた管路経年率からは管路の老朽化が進んでいるといえるが、アセットマネジメントを実施した結果、毎年1.25%の更新を行うことで概ね良好な状態を保つことができると判断している。近年は更新率1.25%を下回る状況が続いているが、更新率の向上を図るため、業務改善・効率化に取り組んでおり、令和2年度は管路更新率が向上している。

全体総括

本市は平成27年度に経営戦略（「西宮市水道事業ビジョン2016」・「投資・財政計画」）を策定するとともに、平成28年度に料金改定を実施し、水道事業を継続していくための資金を確保した。今後も引き続き、計画的に水道施設の耐震化・老朽化対策を進めるなど、経営戦略において必要とした施策・事業を着実に実施するとともに、進捗管理を行い、さらなる費用削減と財政基盤の強化に繋がる施策を推進していくことが求められている。